

消化器内科	
診療科目：消化器内科	
診療科担当研修責任者名： 土屋淳紀（消化器内科准教授）	
診療科連絡先担当者名： 林 和直（消化器内科エデュケーショナルマネージャー）	
受入期間：1ヶ月以上	同時受け入れ可能数：5人以内
◇◇学会認定専門医数◇◇	
内科学会認定内科医21人、総合内科専門医9人、消化器病学会専門医19人、消化器内視鏡学会専門医18人、肝臓学会専門医19人、がん治療認定医7人、肥満症専門医1人、再生医療認定医5人、カプセル内視鏡認定医2人、膵臓学会指導医2人、	
◇◇学会認定指導医数◇◇	
内科学会指導医15人、消化器病学会指導医10人、肝臓学会指導医6人、内視鏡学会指導医9人、がん治療指導医1人、肥満症指導医1人	
診療科の概説・特徴	診療科研修の特徴
当診療科は昭和42年に開設され、平成29年には開設50周年を迎えました。市田文弘初代教授のもと、我が国における肝臓病学の先駆的な臨床研究を行い、多くの優れた人材を輩出しました。現在は第4代寺井崇二教授が教室を牽引しています。消化器内科は上部・下部消化管、肝胆膵など広範な領域の多くの疾患を扱います。全ての分野の基本的な知識・技術を備えた“総合消化器内科医”の育成をめざし、教育体制を整備しています。一方で将来“かかりつけ医”を目指している先生や総合診療医を目指している先生に対しては、内視鏡やエコーなどの手技を習得することで、より多くの患者さんの病態に関与できます。消化器がん、炎症性腸疾患、肝硬変など疾患だけでなく、今後は「機能性ディスペプシア」、「MASLD」も増加すると予想されています。高度な知識と技術を身につけた消化器内科医の育成は社会的な急務です。AI内視鏡の進歩や働き方改革の取り組みを進め、患者さんの「なおりたい」という思いを受けとめ、一人でも多くの患者さんを「治したい」と考えています。	研修期間中は、主要な肝臓、胆膵、消化管の病気を均等に担当できるように心掛けています。各領域は専門の5~6人の医師で構成される主治医グループの一員となり、上級医の直接指導のもとで実践的な研修を行います。当科はアットホームな雰囲気であり、どの上級医や指導医に相談しても、熱心に指導してもらえます。関連病院から紹介される診断治療の困難症例に対しては、チームで相談し、検討会で議論を重ねて一例一例大切にする姿勢が大学病院での研修の特徴です。同時に、急性腹症例などの救急搬送や緊急入院症例も多くあり、迅速な判断を要する救急医療の実践を学ぶことも十分可能です。また、消化器疾患診療における基本的な検査手技（上部消化管内視鏡検査や腹部超音波検査など）の実技研修を受けることができます。さらに、高度な診断治療手技である腹部超音波下の穿刺治療、血管造影、各種内視鏡治療などについては、診断や治療方針を決定する各種検討会に参加し、その基本を学び、指導医に対してその介助ができることを到達目標としています。充実感のある研修の日々を共に経験しましょう。